

政策	1	健康で安心感のある暮らし
----	----------	--------------

施策分野	1	保健・医療
------	----------	-------

現状・課題

(健康増進・母子保健・食育)
 ○「健康寿命」は男性で延伸が見られるが、女性では若干下がっている。特定健康診査の受診率は向上しているが、**がん検診等の受診率は低下傾向にある**。効果的な受診勧奨など、受診率向上の取組を強化するとともに、市民が健康で暮らし続けられるためには市民自らが**生活習慣の見直しや運動習慣の定着に向けた行動ができる総合的な施策が必要である**。
 ○地域とのつながりや、経済力、世帯構成等による健康情報の収集能力や生活習慣の差など「**健康格差**」が問題となっている。社会・経済的に不利な立場にある人や疾病・障害のある人を含め、すべての市民が、自らの**ライフステージに応じた健康づくりに取り組むことができる環境整備が必要である**。また、地域の健康づくりを支える担い手の育成や、**身近な地域における市民主体の健康づくり、フレイル予防の推進が必要である**。
 ○母子保健は、すべての子どもが健やかに成長していくうえでの健康づくりの出発点であり、「ネウボラみよし（三次市妊娠・出産・子育て支援センター）」の開設により、妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援体制が整ったところで、今後も、妊産婦・乳幼児への保健対策等を進めていく必要がある。
 ○食育は、「健塩啓発」「子育て世代の食育実践力の向上」や地元農畜産物を活用した「地産地消の推進と食文化の継承」などに取り組んでいる。「食」の知識の習得支援など、**健全な食生活の実践にむけた取組を推進する必要がある**。

(自殺対策)
 ○**自殺死亡率自殺する人の割合**が増加しており、**広島県と比較しても高い状況で推移している**。自殺の背景には複数の要因が連鎖する中で起きており、メンタルヘルス対策には「**生きることの包括的支援**」が必要である。

(医療)
 ○**高齢化率の増加等に伴い、医療ニーズが高まる一方で、労働力人口が減少し、医療サービスを支える人的資源が縮小するとともに、都市部への医師や看護師等の偏在が加速化しており、医療基盤の維持が困難となることが予測されている**。医療資源（人的・物的）の確保・有効活用を図るとともに、市域を超えた広域連携、デジタル技術やデータ活用、地域交通と一体的に運用する仕組みづくりなどにより、医療の高度化・効率化・利便性向上を促進することで、メンタルヘルス不調を含めた医療ニーズの多様化や高まりに対応し、市民がどこに住んでも、**安心して質の高い医療サービスを受けられる、持続的な地域医療体制を構築する必要がある**。
 ○**市立三次中央病院は、建て替えを計画的に進めるとともに、医療ニーズに応じた診療科の新設や、高度・専門・救急医療が受けられる基幹病院としての機能の維持や、地域医療体制の中核として、医療機関・関係団体等との更なる連携・協働を進める必要がある**。

○コロナ禍を踏まえ、災害発生時や新興感染症の拡大に対しても、十分な検査・診療体制を確保するとともに、平時からの備えや、迅速に対応できる保健・医療の体制整備が必要である。

めざす姿

すべての市民が生涯にわたり、心身ともに健やかに暮らせている。

施策分野の目標指標	現状値	中間値 (令和10年度)	目標値 (令和15年度)
「心も体も健康で暮らすことができる」と思う市民の割合	46.5% (令和4年度)	48%	50%
「不健康な期間（平均寿命と健康寿命の差）」の平均年数	男性3.0（全国3.0） 女性6.2（全国6.4） (令和4年度)	全国平均を下回り、 現状値より減少	全国平均を下回り、 中間値より減少

施策	1	疾病の早期発見・早期治療の推進	資料1
----	----------	-----------------	-----

主な取組	めざす姿			
●健診（特定健診、基本健診）、がん検診の受診環境を整えるとともに、デジタル技術を活用した効果的な受診勧奨を行うなど受診率の向上を図る。	特定健診やがん検診の受診、疾病の早期発見、健診結果の活用により、生活習慣の改善が図られるとともに、適切なタイミングで適切な治療を受ける行動が身についている。			
●要精密検査の未受診者対策を推進する。				
●特定保健指導対象者が指導を受けやすい環境を整え終了率向上を図る。				
● 生活習慣病やがん予防に取り組む 。				
重要業績評価指標（KPI）	現状値	中間値	目標値	
特定健診受診率	38.8% (令和4年度)		※個別計画で設定 (R5.12月決定予定)	
特定保健指導終了率	14.3% (令和4年度)			
国保がん検診受診率(大腸がん)	25.4% (令和4年度)			

施策	2	心と体の健康づくり
----	----------	-----------

主な取組	めざす姿			
●運動できる環境づくりや、身近な地域と連携した健康づくりを進める。	病気があったり、介護が必要であっても、誰もが自らのライフステージに応じた主体的な健康づくりに取り組み、充実した生活をおくれている。			
●ライフステージに応じた口腔の健康づくりや食育の推進を図る。				
●自殺対策を支える人材育成と相談体制の推進や、関係機関等と連携した包括的支援に取り組む。				
重要業績評価指標（KPI）	現状値	中間値	目標値	
運動を習慣化している人の割合	34.2 41.1% (令和4年度)		※個別計画で設定 (R5.12月決定予定)	
節目年齢歯科健診受診率	14.9% (令和4年度)			
う歯のない3歳児の割合	89.3% (令和4年度)			
自殺する人の割合 ※自殺による死亡率人口10万対 (3年平均値)	39 33.2人/10万人 (令和 2-4 3年)			

施策	3	地域で支える医療体制づくり
----	----------	---------------

主な取組	めざす姿			
● 基幹病院である市立三次中央病院を中心としたに、三次地区医師会、三次市歯科医師会、三次薬剤師会など地域医療連携と医療の質の維持・向上を図る 。	地域医療構想の達成に向けた地域医療連携体制を確立し、医療資源の確保・有効活用を図るとともに、医療ニーズの多様化や高まりに対応し、どこに住んでも安心して質の高い医療サービスを受けることができる。			
●医療従事者等を確保・育成する取組を進め、医療体制を確保するとともに、デジタル技術の活用も踏まえた医療機能の整備と充実を図る。				
●救急医療体制を堅持する。				
●市立三次中央病院では、地域の医療ニーズに応じた診療科の新設や病院建設を進め、高度・専門医療の提供や救急医療体制の充実を図る。				
重要業績評価指標（KPI）	現状値	中間値	目標値	
無医地区数	8地区 (令和4年度)	現状維持	現状維持	
市立三次中央病院における医師数	83人 (令和5年度)	86人	90人	

SDGs	1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさを守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリーシップで目標を達成しよう
	貧困をなくそう	飢餓をゼロに	すべての人に健康と福祉を	質の高い教育をみんなに	ジェンダー平等を実現しよう	安全な水とトイレを世界中に	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	働きがいも経済成長も	産業と技術革新の基盤をつくろう	人や国の不平等をなくそう	住み続けられるまちづくりを	つくる責任つかう責任	気候変動に具体的な対策を	海の豊かさを守ろう	陸の豊かさを守ろう	平和と公正をすべての人に	パートナーシップで目標を達成しよう

政策	1	健康で安心感のある暮らし
----	----------	--------------

施策分野	2	福祉
------	----------	----

現状・課題

(高齢者・介護・地域包括ケア)
 ○**高齢化率や一人暮らしの高齢者が増加しており、特に75歳以上の高齢化率は更なる増加が見込まれている。**労働力人口の減少等により、高齢者福祉を支える人的資源が縮小しており、高齢者の見守りや災害時の支援を含め、地域で支えあう体制づくり「**地域包括ケア**」の更なる**推進**が必要である。また、介護と医療の連携強化や、専門人材の確保・育成、相談体制の充実、権利擁護の推進など、高齢者の安心につながる、**みんなで支え合うしくみづくりが必要**である。
 ○**住み慣れた地域で暮らすには、心身ともに元気であることが大切**である。認知症へのサポート充実や相互理解の促進、元気な体づくりへの支援を図るとともに、運動や就労などの生きがいがづくり、移動や生活への多様な支援など、高齢者がいつまでも**元気で活躍できる住み慣れた地域づくりを進める必要がある。**
 ○介護が必要ない人を増やすことが大切だが、**やむなく介護が必要となった人を支えるための基盤は不可欠**である。不足する介護人材の確保・育成、在宅介護を支える体制づくり、サービス提供体制の充実、適切な介護給付への取組強化などにより、**介護保険制度を安定的に運営していく必要がある。**

(障害者)
 ○**障害者アンケート調査では、障害者の半数以上が「差別や嫌な思いをした経験」があり、不当な差別禁止や合理的配慮の考え方等が、市民に十分浸透していない結果**となっている。学校、企業、地域など、あらゆる機会や場所を捉えた**相互理解を促進**する必要がある。また、障害特性に応じ、移動や生活の支援、就労に向けた雇用体制の整備やスポーツ等への参加など、**障害者の社会参加機会拡大に向けた方策について検討を進める必要がある。**
 ○**障害者アンケート調査では、介助者の高齢化が進んでおり、障害者の約4割が、「現在介助してくれている人以外に介助をお願いできる人がいない」結果**となっている。現在、介助を行っている人が介助できなくなった場合(親なき後等)を見据えた支援の強化が必要である。災害時の支援を含め、**地域全体で障害を理解し、支え合う仕組みづくりを進めるとともに、支援組織や体制を強化し、障害の種別に関係なく誰もが、安心して、地域でいきいきと自分らしく生きることができるよう、総合的な施策の推進が必要**である。

(その他)
 ○**生活困窮者への支援を進めるとともに、孤立化防止や、引きこもり、虐待等への対策に向けた具体的な取組を実施する必要がある。**

めざす姿

**みんなで認め合い支え合う、
高齢者や障害者をはじめ、全ての市民が暮らしやすい環境が整っている。**

施策分野の目標指標	現状値	中間値 (令和10年度)	目標値 (令和15年度)
「高齢者が暮らしやすい」と思う市民の割合	26.2% (令和4年度)	27 29%	28 33%
「障害者や生活困窮者が暮らしやすい」と思う市民の割合	15.1% (令和4年度)	18 24%	20 33%
「 近所の人 とお互いに相談したり、助け合ったりしている」市民の割合	19.1% (令和5年度)	22%-25% ※個別計画で設定 (R5.12月決定予定)	
「小さい子やお年寄りが困っている時は迷わず手助けをしている」児童・生徒の割合	74.1% (令和5年度)	77%	80%

施策 1	安心して暮らし続けられる高齢者福祉の推進			
	主な取組	めざす姿		
	<ul style="list-style-type: none"> ●地域包括支援センターを中心に、医療・介護・福祉の関係者、民生委員・児童委員など地域の関係者が連携して、住み慣れた地域においてみんなで支え合うしくみづくりのため、地域包括ケアを推進する。 ●介護予防への取組や元気サロンへの支援など、高齢者がいつまでも元気で活躍できるしかけづくりを推進する。 ●介護人材の確保・育成、在宅介護を支える体制づくり、サービス提供体制の充実など、介護保険制度の安定的な運営を図る。 	高齢者が住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられる環境が整っている。		
		重要業績評価指標 (KPI)	現状値	中間値
		元気高齢者の割合	77% (令和4年度)	※個別計画で設定 (R5.12月決定予定)
		元気サロンの設置数	56か所 (令和4年度)	
		介護のために仕事を辞めた家族・親族がいない割合	83.8% (令和4年度)	

施策 2	ライフステージに応じた障害福祉の推進			
	主な取組	めざす姿		
	<ul style="list-style-type: none"> ●障害者支援センターを中心に、地域全体で障害を理解し支え合うしくみづくりを進め、誰もが安心して地域でいきいきと自分らしく生きることができるよう取組を推進する。 ●あらゆる機会を捉えた相互理解を促進し、社会参加機会拡大に向けて取り組む。 ●在宅で医療的ケアが必要な児童を介護している家族及び手帳の有無に関わらず障害をもっている児童の家族の介護負担軽減に向けた取組を推進する。 	障害のある人やその家族が、地域でいきいきと自分らしく生きることができるよう環境が整っている。		
		重要業績評価指標 (KPI)	現状値	中間値
		障害者支援センターにおける支援件数	7,423件 (令和4年度)	8,000件
		障害を理由とする差別や偏見があると思う市民の割合	86.6% (令和2年度)	75%
				60%

施策 3	心のかようまちづくり			
	主な取組	めざす姿		
	<ul style="list-style-type: none"> ●生活困窮者に対する支援を推進する。 ●支援の声をあげやすいを求めやすい相談支援体制の構築や、つながりの場づくり、地域ぐるみの包括的支援など、孤立化防止や引きこもり等への対策に取り組む。 	経済的困窮やひきこもり等の複合的な課題や制度のはざまの課題にも対応できる環境が整っている。		
		重要業績評価指標 (KPI)	現状値	中間値
		生活サポートセンター相談後、課題解決に至った割合	87.3% (令和4年度)	90%
				93%

SDGs	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	貧困をなくそう	飢餓をゼロに	すべての人に健康と福祉を	質の高い教育をみんなに	ジェンダー平等を実現しよう	安全な水とトイレを世界中に	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	働きがいも経済成長も	産業と技術革新の基盤をつくろう	人や国の不平等をなくそう	住み続けられるまちづくりを	つくる責任 つかう責任	気候変動に具体的な対策を	海の豊かさを守ろう	陸の豊かさを守ろう	平和と公正をすべての人に	パートナーシップで目標を達成しよう

政策	1	健康で安心感のある暮らし
----	----------	--------------

施策分野	3	多文化・共生
------	----------	--------

現状・課題

(人権、共生)
 ○**基本的人権の尊重理念を、あらゆる機会を通して啓発するとともに、全ての人が人間としての存在や尊厳が尊重され、人権を守る思いやりとゆずり合いに満ちたまちづくりを推進する必要がある。**また、重大な人権侵害であるDV（ドメスティック・バイオレンス）への着実な対応が必要である。
 ○**女性の社会進出や外国人の増加をはじめ、性的少数者がクローズアップされるなど、多様性が進む中において、その違いを認め、多様性を受け入れるための啓発活動を行ってきたが、市民に十分浸透していない。**一人ひとりの「個」を大切にし、性別、年齢、障害の有無、民族、国籍などの様々な違いを認める正しい知識を周知するとともに、あらゆる人が相互に人格と個性を尊重し支え合い、多様な個性を認め合える「地域共生社会」を実現する必要がある。
 ○ユニバーサルデザインの普及と、バリアフリーに配慮したハード整備を推進する必要がある。

(平和、国際交流)
 ○平和に対する取組が定着しているが、**形骸的な取組とにならないよう化しないよう工夫し、平和を守る継続的な啓発を行う必要がある。**また、国際交流活動を通じたグローバルな視点をもつ人材育成や、**異文化理解を促進するとともに、お互いに生活習慣・文化・価値観等の違いを認め合い、ゆずり合える意識を醸成する啓発活動を検討・実施する必要がある。**
 ○**在住外国人**への生活相談や日本語教室等の取組を充実するとともに、地域とつながりを深めるための共生の仕組みづくりや、医療・防災・教育・仕事などの様々な分野において、**安心して生活できる環境整備に向けた具体的な取組を検討・実施する必要がある。**

(男女共同参画)
 ○**男女共同アンケート調査では「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」を求める割合が高く、男性の育児参加や家事分担、女性の地域活動や経済分担など、家庭・職場・地域など、あらゆる場面における性別による役割意識の変容を促進していく必要がある。**

めざす姿

人権を尊重し、多様性を認め合う意識が醸成され、思いやりとゆずり合いに満ちた地域社会の中で、誰もが自分らしく活躍できている。

施策分野の目標指標	現状値	中間値 (令和10年度)	目標値 (令和15年度)
「一人ひとりの人権が尊重されている」と思う市民の割合 「人権尊重、男女共同参画が進んでいる」と思う市民の割合	— 19.3% (令和4年度)	24.3 30%	29.3 50%
「一人ひとりの人権が尊重されること」が重要だと思う市民の割合 「人権尊重、男女共同参画を進めること」が重要だと思う市民の割合	— 54.5% (令和4年度)	60%	70%

施策 1	多様性を認め、それぞれの違い 一人ひとりを尊重し合う共生社会の推進 男女共同参画社会の実現と女性が輝くまちづくり				
	主な取組	めざす姿			
	<ul style="list-style-type: none"> ●人権意識の啓発、多様性に関する正しい知識や相談窓口の周知、性的少数者の不安軽減に向けた対応を推進する。 ●男女共同参画意識の啓発、関係団体の活動支援など環境づくりを進める。 ●「アシスタlab. (ラボ)」を通じた女性の活躍を促進する。 ●在住外国人への生活相談や日本語教室等の取組の充実を図るとともに、地域とのつながりを深める共生のしくみづくりや、様々な分野において安心して生活できる環境整備に向けて取り組む。 	<p>一人ひとりの「個」が大切にされるとともに、誰もが性別を意識することなく活躍でき、個々人の様々な違いを認め、尊重し合う意識を高める啓発活動への参加が広がり、理解の深まりや行動変容につながっている。生活習慣や文化、価値観の違いを認め合う中で、在住外国人が安心して暮らしている。男女が、互いにその人権や個性を尊重し、責任も分かち合い、それぞれの個性と能力を十分に発揮することができている。また、女性が自分らしい働き方を見つけ、生き生きとしている。</p>			
		重要業績評価指標 (KPI)	現状値	中間値	目標値
		人権講演会等への参加者数	599人 (令和4年度)	800人 1,660人	1,000人 2,000人
		外国人相談を受けたうち、解決が図られた割合	—	80%	90%
		市役所が設置する審議会の女性委員の割合	27.6% (令和4年度)	44%	50%

※「男女共同参画社会の実現と女性が輝くまちづくり」を削除し、旧施策3に統合。

※下記指標を削除し、新規指標を追加
 ・積極的に育児をしている父親の割合
 ・女性の就業率
 ・パートナーシップ宣誓制度の申請件数 (削除のみ)

施策 2	平和の継承と国際交流の推進				
	主な取組	めざす姿			
	<ul style="list-style-type: none"> ●平和の尊さや、恒久平和の願いを次世代に継承する取組を推進する。 ●国際交流活動を支援し、グローバル人材の育成や異文化理解を促進する。 	<p>恒久平和の取組が継続しているとともに、国際交流を通じた異文化理解が進んでいる。</p>			
		重要業績評価指標 (KPI)	現状値	中間値	目標値
		国際交流人数	215人 (令和4年度)	250人	280人
		国際交流活動への参加により、異文化理解が深まった人の割合	—	80%	90%
		平和記念イベントの参加者数	200人 (令和4年度)	250人	300人

施策 2	多様性を認め、それぞれの違いを尊重し合う共生社会の推進				
	主な取組	めざす姿			
	<ul style="list-style-type: none"> ●人権意識の啓発、多様性に関する正しい知識や相談窓口の周知、性的少数者の不安軽減に向けた対応を推進する。 ●在住外国人への生活相談や日本語教室等の取組を充実するとともに、地域とのつながりを深める共生のしくみづくりや、様々な分野において安心して生活できる環境整備に向けた具体的な取組を検討・実施する必要がある。 	<p>多様な違いを認め、理解の深まりや行動変容につながり、在住外国人が安心して暮らしている。</p>			
		重要業績評価指標 (KPI)	現状値	中間値	目標値
		外国人相談を受けたうち、解決が図られた割合	—	80%	90%

施策1に組換

SDGs	1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任、つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさを守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナーシップで目標を達成しよう
	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

政策	2	安全で快適な生活環境
----	----------	------------

施策分野	1	自然環境
------	----------	------

現状・課題

（自然環境の保全）
 ○希少野生動植物の保護をはじめ、環境保全活動など自然環境の保全に向けた取組を進めているところであり、豊富な森林や河川、里山などの自然の豊かさは三次の財産として認識されている。貴重な自然環境を守り育てていくため、幼いころからの体験活動や教育活動の推進、**各地域で保全活動を推進する人材育成の強化など、これまでの取組を継続、発展、拡大し、市民が主体的・自発的に活動できる環境づくりを進める必要がある。**

（循環型社会・脱炭素社会の推進）
 ○市民、地域、企業と連携し、**4Rの推進による持続可能な循環型社会の実現、増加するごみへの適正処理**（廃棄物処理施設の適切な運用、災害廃棄物対策など）に取り組む必要がある。また、**再生可能エネルギー化**（太陽光発電施設や地中熱等の活用）や**省エネルギー化**（公共交通の利用促進、カーボンオフセットなど）の普及啓発に取り組む、**温室効果ガスの排出抑制を図る必要がある。**
 ○太陽光発電設備をはじめとした再生可能エネルギーの導入の際は、景観形成の視点も考慮しながら進めていく必要がある。また、遊休地の有効的な活用方法や、災害発生時における緊急電源の確保などの地域課題の解決についてもあわせて考えていく必要がある。

めざす姿

市民、地域、企業、行政の多様な活動により、豊かな自然と共生し、環境に配慮された地域社会で暮らしている。

施策分野の目標指標	現状値	中間値 (令和10年度)	目標値 (令和15年度)
「美しい山、川、風景があり自然が豊かである」と感じている市民の割合	75.9% (令和4年度)	78%	80%
温室効果ガス排出量（市内）	579千t-Co2 (令和2年度)	※個別計画で設定 (R5.12月決定予定)	

施策 1 自然保護・生活環境の保全

主な取組	めざす姿			
<ul style="list-style-type: none"> ●地域や企業などが連携した環境保全活動に取り組むとともに、環境教育の推進により各地域で保全活動を推進する人材を育成する。 ●希少野生動植物の保護活動などにより生物多様性の保全を図る。 ●公共用水域の水質浄化を推進するなど、良好な生活環境を維持する。 	希少動物の保護、環境保全活動など、市民一人ひとりの主体的な活動により、豊富な森林や河川、里山などの貴重な自然環境が守り育てられている。			
	重要業績評価指標（KPI）	現状値	中間値	目標値
	地域活動として、自然保護や環境保全活動をしている市民の割合	6.2% (令和4年度)	12%	20%
	生物化学的酸素要求量の環境基準達成状況（作木町三国橋付近）	1.0mg/ℓ (令和3年度)	0.65mg/ℓ	0.5mg/ℓ

施策 2 脱炭素社会の実現・循環型社会の推進

主な取組	めざす姿			
<ul style="list-style-type: none"> ●デジタル技術を活用しながら、ごみの資源化や再生利用を促進する。とともに、 ●自転車や公共交通機関等の利用促進、次世代自動車等の普及促進など、エネルギーの効率的な利用と創出により、脱炭素社会の構築に取り組む。 ●環境学習や啓発事業により環境の保全意識を高め、行動変容につなげるとともに、不法投棄防止対策などに取り組む。 ●市民や地域、企業・行政が一体となった、廃棄物の4R（リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル）を推進する。 ●一般廃棄物最終処分場建設の検討を進める。 	市民や地域、企業・行政が一体となって、脱炭素社会の実現に向け、省エネ・再エネの取組を推進するとともに、環境に配慮した循環型社会の実現に向けて、廃棄物の減量化と資源化が進んでいる。			
	重要業績評価指標（KPI）	現状値	中間値	目標値
	「省エネやリサイクルなど環境に配慮した取組が進んでいる」と感じている市民の割合	27.9% (令和4年度)	55% 55.8%	70% 69.8%
	分別に関する学習後、行動に結びついた割合	—	55%	75%
	ごみの資源化率	19.6% (令和4年度)	20% 20.1%	22%

※下記指標を削除
 ・市民一人あたりのゴミ排出量

SDGs	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	貧困をなくそう	飢餓をゼロに	すべての人に健康と福祉を	質の高い教育をみんなに	ジェンダー平等を実現しよう	安全な水とトイレを世界中に	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	働きがいも経済成長も	産業と技術革新の基盤をつくろう	人や国の不平等をなくそう	住み続けられるまちづくりを	つくる責任つかう責任	気候変動に具体的な対策を	海の豊かさを守ろう	陸の豊かさを守ろう	平和と公正をすべての人に	パートナーシップで目標を達成しよう

政策	2	安全で快適な生活環境
----	----------	------------

施策分野	2	生活基盤
------	----------	------

現状・課題

（道路環境の維持と下水道の管理）
 ○計画的な道路の整備、市民協働による維持管理により、市道改良率・舗装率ともに向上しているが、今後、限られた財政状況の中では、すべての社会資本ストック（道路・橋・下水道など）を良好な状態で維持・更新していくことは困難である。「防災減災・安全」を視点に、整備後における周辺環境への影響を配慮しつつ、**優先順位をつけた維持・更新、下水道については経営的視点を持ちながら整備する必要がある。**また、**人口減少を見越し、過度な投資とならないよう、インフラ整備のあり方を再構築する必要がある。**

（空き家の適切な管理・活用）
 ○人口減少に伴う空き家の発生や家庭事情等により、その後の解体・譲渡が進まない空き家が増加し、空き家に関する問題（空き家の老朽化、地域の安全・防犯面など）が生じている。**所有者への適正管理の周知を行うとともに、専門関係団体（不動産関係、司法書士会など）と連携し、予防的対策による老朽危険化の防止が必要である。**
 ○近年の価値観やライフスタイルを踏まえ、空き家を貴重な資源として捉え、集まる、働く、暮らす場所の創出など、**空き家の利活用を進める必要がある。**

（都市機能と生活拠点）
 ○まちのエントランスであり、商業・まちなか居住の受け皿などの機能を持つ中心市街地を中心に、文化（美術館や市民ホール等）、子育て（あそびの王国、森のポケット）、スポーツ（みよし運動公園等）、医療（市立三次中央病院）などの都市的機能が集まる文化・交流ゾーン、企業誘致を図る工業ゾーン、区画整理事業に伴う住宅地の創生による地域生活拠点など、それぞれ担う機能を持つ各地域がつながることで、住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちづくりを展開していく。

（豊かな自然と融和した景観づくり）
 ○三川合流部を中心とした環境整備や公園整備、里山の整備・保全等に取り組んでいるが、景観の保全と自然エネルギー利用との調和が図れていない。**三次らしい田園風景など美しい景観を守りながら、地域の特性を活かし、河川環境を活用した賑わいづくり、**景観条例に基づく**良好な景観形成、景観づくり**に取り組む**市民団体等のネットワークの構築**などまちの魅力を高めるための取組を進める必要がある。

（利便性のある公共交通）
 ○利用促進に係る事業に取り組んでいるものの、自家用車の普及や人口減少に伴い、市民バスや路線バス、JR等の公共交通の利用者数は、全体的・経年的な減少傾向が続いており、公共交通の維持が困難な状況が生まれている。（バス停までの移動が不便、必要としているルートがバスが走っていないなど、公共交通の現状と利用者ニーズが合致していないなどの要因が考えられる。）一方で、運転免許証を返納する高齢者が増加するなど、自家用車を持たない市民への移動手段の確保が課題である。
 ○**利用者のニーズに合ったサービス見直しなど、地域の実態に応じた移動環境づくり**や、相乗りタクシー事業の普及、モデル事業の検討（オンデマンドバス等）などに取り組み、**市民の移動手段を確保し、高齢者など誰もが安心して暮らせる環境づくりを進める必要がある。**また、**市外（広島市等）へのアクセスの利便性向上**により、**拠点性の維持確保**に取り組む必要がある。
 ○**デジタル技術（自動運転化など）の活用**等、社会情勢への変化に対応した公共交通体系が必要である。（貨客混載等）

めざす姿

市民が安全・安心で快適に住み続けられる生活基盤が整備されている。

施策分野の目標指標	現状値	中間値 (令和10年度)	目標値 (令和15年度)
三次に住み続けたい理由に「道路や上下水道などの生活基盤が整っているから」と回答する市民の割合	17.7% (令和4年度)	25%	33%
「バスやJR、高速道路が整っていて交通の便利がいい」と思う市民の割合	24.8% (令和4年度)	30% 29.8%	35% 34.8%

施策	1	安全で良好な生活環境づくり		
主な取組		めざす姿		
<ul style="list-style-type: none"> ●国・県と連携し、広域的な道路ネットワークの維持・強化を図る。 ●重要インフラの整備を優先するとともに、安心して利用できる道路環境整備を進め、道路の安全性・利便性を高める。 ●予防保全による橋梁等の長寿命化を図るとともに、適正な維持管理を推進する。 ●デジタル技術の活用により、持続可能な道路環境の維持、保全に取り組む。 ●持続的・安定的な上下水道事業の運営に向け、施設の統廃合などによる経営の効率化を図る。 		重要インフラ整備に係る道路の整備や安全性の確保、予防保全による 社会資本 の長寿命化や 統廃合 により、 道路等や公園等の社会資本 が適切に維持保全されている。また、公共用水の水質浄化の推進により、生活環境の向上と水質の保全が図られている。		
重要業績評価指標（KPI）		現状値	中間値	目標値
道路改良率		59.9% (令和4年度)	60.4%	60.9%
予防保全による社会的影響が大きい橋梁の補修割合		-	50%	100%
汚水処理普及率		81.3% (令和4年度)	86.9%	91.2%

施策	2	自然環境と歴史風土が融和した景観形成拠点性の維持と良好な住環境づくり		
主な取組		めざす姿		
<ul style="list-style-type: none"> ●三川合流部周辺など三次の特徴である河川環境や交通の結節点を活用したまちなかのにぎわいづくりと多様な地域特性を活かした地域で暮らし続けられるまちづくりを推進する。 ●まちと田園風景の調和がとれた景観形成を進めるとともに、市民との協働の推進による公園や街なみの環境維持・改善に取り組む。 ●土地利用を含めた空き家対策を推進するとともに、空き家バンクによる移住対応など、積極的に利活用を推進する。 		三次ならではの自然環境と調和した景観形成や都市機能が集まる中心市街地・ 地域の拠点性の維持を中心としたにぎわいの創出 により、まちの魅力が高まっている。		
重要業績評価指標（KPI）		現状値	中間値	目標値
「三次駅周辺などの中心市街地に都市的ににぎわいがある」と思う市民の割合		15.7% (令和4年度)	20%	25%
地域活動として、まちの美化・緑化活動に参加している市民の割合		13.4% (令和4年度)	20% 15%	33% 20%
特定空家件数		27件 (令和5年9月時点)	25件	20件

施策	3	持続可能な地域公共交通の確立		
主な取組		めざす姿		
<ul style="list-style-type: none"> ●利用者のニーズを踏まえた交通体系の見直しなど、地域の実態に応じた移動環境づくりを推進する。 ●デジタル技術を活用しながら、高齢者など誰もが安心して暮らせるための移動手段の確保を図る。 ●JRなど広域移動を担う公共交通の維持のため、デジタル技術を活用しながら利用促進や利便性の向上に取り組む。 ●交通を地域の暮らしと一体として捉え、地域課題の解決につなげるため、様々な分野（医療、福祉、物流など）と連携した事業の調査・研究等を推進する。 		通学、買い物、通院など日常生活に係る移動手段が確保されており、住み慣れた地域で安心して暮らせている。		
重要業績評価指標（KPI）		現状値	中間値	目標値
一人当たりの路線バス利用回数利用者数		2.67回/人 133,427人 (令和4年度)	現状維持 125,000人	現状維持 120,000人
相乗りタクシーの利用者数		50人 (令和4年度)	80人	100人
JR芸備線の平均通過人数（三次～下深川）		988人 (令和4年度)	1,070人	1,100人

※下記指標を削除
市民バスの利用者数

SDGs	1 貧困をなくそう	2 気候変動に脅かされた持続可能な開発	3 持続可能な消費と生産	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさを守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう
	貧困をなくそう	気候をゼロに	すべての人に健康と福祉を	質の高い教育をみんなに	ジェンダー平等を実現しよう	安全な水とトイレを世界中に	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	働きがいも経済成長も	産業と技術革新の基盤をつくろう	人や国の不平等をなくそう	住み続けられるまちづくりを	つくる責任 つかう責任	気候変動に具体的な対策を	海の豊かさを守ろう	陸の豊かさを守ろう	平和と公正をすべての人に	パートナーシップで目標を達成しよう

政策	2	安全で快適な生活環境
----	----------	------------

施策分野	3	防災減災・安全
------	----------	---------

現状・課題

(災害に強いまちづくり)
 ○近年、これまでに経験したことのない大規模な災害が全国各地で頻発し、本市においても、平成30年7月豪雨など、大規模な災害が発生しており、今後も同様の自然災害が懸念される。
 防災・減災対策の推進にあたっては、「**自助」「共助」「公助」の役割分担が必要である。**
 ○国・県と連携し、雨水貯留施設をはじめとする内水対策事業等のハード面の整備のほか、防災情報伝達手段の多様化、防災士の育成、防災教育の推進、避難行動要支援者等に対する個別計画の策定、自主防災組織を中心とした住民主体の取組など、ソフト面の取組も進めてきた。
 ○一方で、災害発生時の状況把握の可否や、防災意識などに地域・個人差があるなどの課題も見られる。また、近年、人口減少・少子高齢化や価値観・ライフスタイルの多様等により地域における「共助」機能が低下するとともに、**自主防災組織や消防団員の人材不足が課題**となっている。
 ○今後は、**市民に確実かつ迅速に情報伝達できる仕組みの充実**をはじめ、防災・減災の観点から、**市民一人ひとりが災害時に適切に動ける意識の醸成など、防災意識の高揚を図る必要がある。**また、**自主防災組織が適切に機能できるよう人材確保を進めるとともに、要支援者の避難支援・声かけなど地域防災力の強化を図る必要がある。**

(安全・安心のまちづくり)
 ○刑法犯認知件数や交通事故件数は減少傾向がみられるが、消費生活センターの相談件数は横ばいで推移している。**犯罪の発生を未然に防ぐとともに特殊詐欺など新たな犯罪脅威への対応が必要となっている。**
 ○子どもや高齢者の安全を確保するため、**安全で快適な交通環境を確保する**など（通学路の安全性の確保、高齢者にやさしい道路環境の整備、防犯灯・街灯の維持管理の在り方の検討など）の対応が必要である。

めざす姿

市民一人ひとりが災害に対して備え、災害時には命を守るための行動をとることができるとともに、まちの安全性が高まっている。

施策分野の目標指標	現状値	中間値 (令和10年度)	目標値 (令和15年度)
災害時に取るべき安全な行動が行える市民の割合	—	50%	80%
「 防災減災→防犯体制 が整っている」と思う市民の割合	29.2% (令和4年度) —	40%	70%

施策 1 いのちと暮らしを守るまちづくり

主な取組	めざす姿			
<ul style="list-style-type: none"> ●国・県と連携し、ハード・ソフト両面での防災減災対策、インフラ強化を促進するとともに、流域治水の考え方に基づいて浸水対策に取り組む。 ●デジタル技術を活用し、災害危険区域や、避難情報、避難先などを、災害弱者をはじめ、誰でも、いつでも、どこでも入手できるよう、情報収集・伝達手段の拡充と普及を図る。 ●防災教育の推進、消防団の機能の確保、自主防災組織の支援、防災士の育成及び相互連携による地域防災力の強化を進め、避難計画やタイムライン等に基づいた早めの避難行動がとれるよう支援する。 ●災害や新興感染症などの発生時において、対応可能な体制を備える。 	激甚化、頻発化する災害に対する防災減災対策を着実に実施するとともに、市民、地域、行政それぞれが災害に備え、行動することによって市民の生命や財産を守ることができている。			
	重要業績評価指標 (KPI)	現状値	中間値	目標値
	流域治水の考え方に基づいて内水対策が完了した地区の割合	1/14 <small>(令和4年度)</small>	7/14	14/14
	災害情報を入手する手段を持った市民の割合	26% <small>(令和4年度)</small>	40%	100%
	避難訓練に参加した市民の割合	19% <small>(令和4年度)</small>	30%	50%
	「地域の人が助け合い安全に暮らせる」と思う市民の割合	32.7% <small>(令和4年度)</small>	40%	70%

施策 2 交通安全や防犯対策の推進

主な取組	めざす姿			
<ul style="list-style-type: none"> ●特殊詐欺のターゲットとなりやすい高齢者や性犯罪等のターゲットとなりやすい子どもを中心に防ぐための啓発や見守り活動等を推進する。 ●交通安全設備等の整備を行うとともに、交通ルールや危険箇所等についての周知、指導を推進する。 ●消費生活に関して、トラブルや不安に関する相談等に対応するとともに、トラブルを未然に防ぐための啓発を推進する。 	高齢者や子どもを中心に、 市民が犯罪や事故に巻き込まれない意識を持ち行動ができるとともに、消費生活に関する相談等がしやすい環境が整っていることで、 市民が安心・安全に生活 できている。			
	重要業績評価指標 (KPI)	現状値	中間値	目標値
	刑法犯認知件数	157件 <small>(令和4年)</small>	130件	100件
	交通事故発生件数（高齢者・子ども）	16件 <small>(令和4年)</small>	12件	8件
	性犯罪や消費トラブルにあったときの相談窓口を知っている市民の割合	—	性 12% 消費 25%	性 25% 消費 30%

※下記指標を削除
 ・子ども対象の性犯罪・声かけ事案等認知件数
 ・消費生活相談件数

SDGs	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	貧困をなくそう	飢餓をゼロに	すべての人に健康と福祉を	質の高い教育をみんなに	ジェンダー平等を実現しよう	安全な水とトイレを世界中に	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	働きがいも経済成長も	産業と技術革新の基盤をつくろう	人や国の不平等をなくそう	住み続けられるまちづくりを	つくる責任 つかう責任	気候変動に具体的な対策を	海の豊かさを守ろう	陸の豊かさを守ろう	平和と公正をすべての人に	パートナーシップで目標を達成しよう

政策	3	子どもの未来応援
----	----------	----------

施策分野	1	子育て
------	----------	-----

現状・課題

(一人ひとりの育ち)
 ○発達に課題があるなど、**支援の必要な子どもが増加傾向にあるが、関係機関の連携や支援体制の構築がまだまだ十分ではない。**保育の質の更なる向上を図るとともに、**多面的・継続的な支援体制を構築する必要がある。**
 ○児童虐待など、**子どもが生まれ育つ環境によって様々なリスクが顕在化しているが、**家庭での児童の様子が見えにくいというに、子育て家庭の情報が庁内や関係機関で**十分共有されていない**場合がある。**予防的支援を含めたアセスメントや、機を逸さないフォロー体制を構築する必要がある。**
 ○**入所児童の減少が顕著な地域があり、保育所規模の適正化に取り組んでいるが十分とは言えない。**今後、ますます児童数が減少していく中、地域や保護者の不安や懸念に丁寧に対応しながら、児童の発達に必要な集団での**確かな育ちを保障していく必要がある。**

(子育てしやすい家庭)
 ○母親の就労率が上昇し、夫婦共働きのライフスタイルが更に進んでいるが、**子育てと仕事の両立支援に向けた取組が十分ではない。**父親の育児休業取得率は改善しておらず、家事・育児においては**女性の負担が依然として大きい傾向**にある。子育て世代の負担軽減(人的・財政的支援)などを含め、社会全体で支えあい、**働きながら安心して子育てができる環境づくり**や、これから親となる世代の育成が必要である。
 ○「ネウボラよし」を中心に、妊娠期からの切れ目ない相談支援の充実を図るとともに、関係機関等と連携し、**安心して妊娠・出産・子育てができる支援体制を強化する必要がある。**

(地域で支える)
 ○**保護者アンケート調査では、子育て世帯の約1割が日常的にも緊急時にも「祖父母などに預かってもらえない」状況にある。**子どもたちと地域のつながりが不足し、地域が子どもへ関わること(声掛け等)が難しいケースもある中で、地域の子育てサポート機能が十分発揮されていない。社会情勢に対応した地域ぐるみによる子育て支援ネットワークを構築し、親族に頼れない人を支えるとともに、放課後子ども教室など地域社会の中で、**子どもの安全で健やかな居場所づくりを進める必要がある。**

めざす姿

安心して子どもを産み育てる環境が整い、子どもが健やかに成長している。
子どもの健やかな成長を育む環境が整い、保護者が「安心して子どもを産み育てる喜びを感じながら子育てをしている。」

施策分野の目標指標	現状値	中間値 (令和10年度)	目標値 (令和15年度)
「安心して子どもを産み育てる環境が整っている」と思う市民の割合	32.5% (令和4年度)	40%	50%

施策 1 妊娠期から子育て期までの切れ目のない子育て支援体制の充実				
主な取組		めざす姿		
<ul style="list-style-type: none"> ●すべての妊産婦・子ども・子育て世帯を対象に、関係機関等の連携やデジタル技術の活用による切れ目のない包括的・継続的支援に取り組む。 ●相談しやすい体制の充実を図る。 ●児童虐待などの課題の早期発見・早期対応・早期ケアの充実を図る。 		気軽に相談できる相談支援体制があり、関係機関・団体が連携した必要な包括的支援が届けられ、課題の予防的支援、早期発見・早期対応、早期ケアにより、子育てに関する不安や負担感が 減少している。 →の減少や育てにくさに対処できる親が増えている。		
重要業績評価指標 (KPI)		現状値	中間値	目標値
子育てに関して不安・負担感を感じる就学前児童の保護者の割合		55.5% (平成30年度)	50%	45%
子育てにくさを感じた時に、相談先を知っているなど何らかの解決する方法を知っている保護者の割合		82.8% (令和4年度)	90%	95%
		育てにくさを感じた時に、相談先を知っているなど何らかの解決する方法を知っている保護者の割合		
		育てにくさを感じた時に、相談先を知っているなど何らかの解決する方法を知っている保護者の割合		

施策 2 一人ひとりの育ちを大切に作る環境づくり				
主な取組		めざす姿		
<ul style="list-style-type: none"> ●乳幼児期の教育・保育、幼保小連携・接続の充実を図る。 ●保育の質の向上や保育所規模適正化の取組など、子どもの確かな育ちを実現する環境づくりに取り組む。 ●こども発達支援センター・保育所等において適切な発達支援に取り組む。 		保育所等において子ども一人ひとりの育ちが保障され、幼保小連携により学びが円滑に接続されている。		
重要業績評価指標 (KPI)		現状値	中間値	目標値
子どもが喜んで保育所に通っていると感じる保護者の割合		89.5% (令和5年度)	92%	95%
子どもが通っている保育所に満足している保護者の割合		88.9% (令和5年度)	92%	95%

施策 3 多様な子育て世帯への支援				
主な取組		めざす姿		
<ul style="list-style-type: none"> ●子育てしやすい環境づくりに取り組む。 ●子育て世帯の経済的負担の軽減を図る。 ●経済的な支援を必要とするひとり親家庭など、様々な困難を抱える子どもや保護者 親への支援に取り組む。 		ニーズに応じた子育て支援や、地域全体で子どもの成長を見守る中で、多様な子育て 世代世帯 が安心して子育てができている。また、様々な困難を抱えた家庭の子どもが夢と希望をあきらめることのないよう必要な支援が届けられている。		
重要業績評価指標 (KPI)		現状値	中間値	目標値
子育て環境や支援に満足している保護者の割合		56.1% (平成30年度)	60%	65%
仕事と子育ての両立が難しいと感じている就学前児童の保護者の割合		28.5% (平成30年度)	25%	20%
「地域の人が子育てを応援している」と思う市民の割合		30.4% (令和4年度)	40%	50%
この地域で子育てをしたい保護者 親の割合		87.9% (令和4年度)	95.6%	90%—95% ※個別計画で設定 (R5.12月決定予定)

SDGs	1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさを守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリーシップで目標を達成しよう
	貧困をなくそう	飢餓をゼロに	すべての人に健康と福祉を	質の高い教育をみんなに	ジェンダー平等を実現しよう	安全な水とトイレを世界中に	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	働きがいも経済成長も	産業と技術革新の基盤をつくろう	人や国の不平等をなくそう	住み続けられるまちづくりを	つくる責任つかう責任	気候変動に具体的な対策を	海の豊かさを守ろう	陸の豊かさを守ろう	平和と公正をすべての人に	パートナーシップで目標を達成しよう

政策	3	子ども未来応援
----	----------	---------

施策分野	2	教育
------	----------	----

現状・課題

(必要な力の育成)
 ○学力は全国平均を上回っており、基礎的な学力は概ね定着している一方で、「**学習した内容を組み合わせ、新たな課題を解決していく力**」が**十分とは言えない**。先行き不透明な社会では「知識を活用し、協働して新たな価値を生み出せるか」がますます重要となるため、デジタル技術を効果的に活用しながら、**一人ひとりに最適で効果的な学びの支援が必要である**。
 ○発達に課題があるなど、**支援の必要な子どもが増加傾向にあるが、関係機関の連携や支援体制の構築がまだまだ十分とは言えない**。障害のある子どもだけでなく、全ての子どもたちが安心して生き活きと生活ができるよう、**一人ひとりの状況に応じた支援が必要である**。
 ○体力は全国平均と同水準であるが、**走力及び持久力は十分ではなく、児童生徒の約2割は運動が嫌いな状況にある**。運動能力やスポーツへの親しみの向上、**部活動環境の確保を図る必要がある**。
 ○**超スマート社会を見通し**、インターネットやAI等を学習方法や教材に活用するほか、若年期からのICTメディアリテラシーや**プログラミング能力を育成する必要がある**。また、高校等の卒業後を見通し、工業系や看護系の学びを深められる機会の創出など、卒業後の学びの充実を図る必要がある。

(地域・家庭との協働)
 ○保護者や地域住民等から多様かつ高度な要請や、開かれた学校運営を求める声が寄せられるようになり、**教職員だけでは教育の質的充実が困難となっている**。コミュニティ・スクールの推進など、教職員と保護者や地域住民等とが、子供や学校が抱える課題や、達成したい教育目標について共有しながら、各々教育的な役割を自覚し、分担しあったり、時に協力しあったりしながら、**地域総がかりでの教育(ひとつづくり)を実現する必要がある**。また、地域の特色を活かした、三次ならではの教育を進める必要がある。
 ○こうした取組等を通じて、いったん三次市を離れても、ふるさとを想いつづけ、「**三次市に帰ってきたい**」と思う人材育成につなげる**必要がある**。

(活力と信頼の学校)
 ○暴力行為やいじめ等の早期発見・解決が図られているが、**不登校児童生徒は全国や県と同様に増加傾向にある。教育相談体制や不登校児童等に対する支援強化が必要である**。
 ○**児童生徒の減少が顕著な地域があるが、学校規模の適正化は十分とは言えない**。今後、ますます児童生徒数が減少していく中、地域や保護者の不安・懸念に丁寧に対応しながら、**豊かな教育環境につなぐ学校規模適正化及び学校施設整備に取り組む必要がある**。

めざす姿

高い志をもち夢や目標の実現に挑戦し、自立を図るとともに、他者と協力し住み続けたいまち三次の実現に貢献する、心豊かでたくましい子どもたちが育成されている。

施策分野の目標指標	現状値	中間値 (令和10年度)	目標値 (令和15年度)
夢や目標を持っている児童・生徒の割合	小学生 83.1% 中学生 70.4% (令和4年度)	小学生 90% 中学生 85%	小学生 100% 中学生 90%
三次市に愛着を感じている生徒の割合	78.1% (令和4年度)	80%	85%
「学校の教育環境が充実している」と思う市民の割合	28.5% (令和4年度)	35%	40%

施策 1	子どもが高い志をもち、夢や目標の実現に挑戦するために必要な力の育成			
主な取組	めざす姿			
<ul style="list-style-type: none"> ●授業研究の充実や、子どもと向き合う時間につなぐ働き方改革の推進など、チーム学校による学力保障を図る。 ●一人ひとりの個性や可能性に対応するデジタル技術等の効果的な活用や、特別支援教育の充実など、個別最適で効果的な学びを実現する。 ●体験活動と読書活動の充実を図る。 ●豊かな語学力や異文化・多様性等への理解があるグローバル人材の育成を進めるとともに、情報活用能力の育成など、時代の変化に対応できる資質を身に付けさせる。 	子どもが高い志をもち、個別最適で効果的な学びや様々な体験活動等を通して、夢や目標の実現に挑戦するために必要な力が育成されている。			
	重要業績評価指標 (KPI)	現状値	中間値	目標値
	三次市学力到達度検査における全国平均との差	小 5 +7.4 中 2 ±0 (令和4年度)	小 5 +7.5 中 2 +3	小 5 +8 中 2 +5
	働きがいを感じる教職員の割合	3.3点 (令和4年度)	3.4点	3.5点
学習の中でPC、タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う児童・生徒の割合	小 97.5% 中 91.2% (令和4年度)	小 98% 中 95%	小 100% 中 100%	
授業で実際にものを使ってやってみたり、地域や自然の中で学習したりするなどの体験活動をしている児童・生徒の割合	小 73.1% 中 64.5% (令和5年度)	小 80% 中 75%	小 85% 中 80%	

施策 2 多様な人々とつながり、次代を担う自覚が育つ学校づくり

主な取組	めざす姿			
<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニティ・スクールと地域学校協働活動との一体的な推進や、中学校部活動の地域移行の推進、幼保・高校・大学等との連携など、学校・家庭・地域等の連携協働を推進する。 ●いじめ・不登校対策及び生徒指導の充実や保護者との連携・支援及び、様々な課題を抱えた子どもたちにとって、魅力ある安全・安心な居場所づくりを推進する。 多様な子どもの魅力ある居場所づくりなど、安全・安心な居場所づくりを推進する。 ●他地域・各種団体との交流など、多様なつながりの場・体験を創造する。 	子どもが安心して過ごせる居場所があり、地域総がかりで、次代を担う学びや成長が支えられている。			
	重要業績評価指標 (KPI)	現状値	中間値	目標値
	保護者や地域の人との協働による活動を行った学校の割合	小 60.0% 中 58.3% (令和4年度)	小 65% 中 65%	小 75% 中 75%
	児童・生徒における「地域貢献」への肯定的な回答率	小 84.3% 中 65.7% (令和4年度)	小 90% 中 70%	小 95% 中 75%
児童・生徒における「自己肯定感」の割合	小 86.2% 中 78.9% (令和4年度)	小 87% 中 80%	小 90% 中 83%	

施策 3 子どもの創造性を育む豊かな学びの環境づくり

主な取組	めざす姿			
<ul style="list-style-type: none"> ●小・中学校の設備更新や、長寿命化改修、建替えなど、小・中学校老朽化対策を推進する。 ●小・中学校の施設整備など、学校施設整備を推進する。 ●学校関係者や地域との連携により、学校規模適正化に取り組む。 ●三次産食材の使用による食育を推進するとともに、安全安心な給食を提供する。 	子どもが学校で安全に安心して過ごすことができ、子どもの創造性や学ぶ力を引き出す豊かな教育環境が整っている。また、安全安心な給食の提供により、子どもの育ちが支えられている。			
	重要業績評価指標 (KPI)	現状値	中間値	目標値
	特別教室等における空調機設置率	66% (令和4年度)	70%	75%
	学校給食で三次産農産物を使用する割合(金額ベース)(%)	—	※個別計画で設定(R5.12月決定予定)	

SDGs																	
	貧困をなくそう	飢餓をゼロに	すべての人に健康と福祉を	質の高い教育をみんなに	ジェンダー平等を実現しよう	安全な水とトイレを世界中に	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	働きがいも経済成長も	産業と技術革新の基盤をつくろう	人や国の不平等をなくそう	住み続けられるまちづくりを	つくる責任 つかう責任	気候変動に具体的な対策を	海の豊かさを守ろう	陸の豊かさを守ろう	平和と公正をすべての人に	パートナーシップで目標を達成しよう

政策	4	豊かな心と生きがい
----	----------	-----------

施策分野	1	芸術・文化
------	----------	-------

現状・課題

(芸術・文化活動の推進)
 ○市民ホールや美術館、もののけミュージアムなどの施設やイベントを通じて、**市民が芸術・文化に触れる環境は確保できているが活用には課題もある**。価値観の多様化や心の豊かさを求める傾向が重視される社会的背景から、**市民が自ら日常的に芸術・文化に触れ、表現(発表)できる機会の創出、多様な芸術・文化活動**(自ら、みる・やってみる楽しみ、本物を体験する等)の**充実が図られる環境づくり**が課題である。
 ○充実した施設を有効活用し、文化団体・施設等の連携に努めるとともに、活動を支える人材(ボランティアスタッフ等)を確保・育成に努め、芸術・文化活動の活性化を図る。

(歴史・伝統文化の保存・活用・継承)
 ○文化財をはじめ地域の歴史・伝統文化(史跡寺町廃寺跡、神楽、田楽、もののけなど)は、地域への誇りと愛着を高める重要な要素である一方で、**それらの保存・活用・継承にあたって、後継者・人材不足の課題が生じている**。市民が**地域の歴史・伝統文化を学び、理解を深める取組**(デジタル技術の活用、子どもたちを対象とした学習機会、身近に感じてもらえる取組など)を模索し、地域全体で保存・活用・継承していく仕組みづくりが必要である。

(生涯の学び)
 ○生涯学習の対象者が高齢者中心となっている部分があることは否定できない。市民全体の多様な学びに結びついていない部分もある。また、人生100年時代の到来など社会経済環境の変化に対応するリカレント教育やリスクリテラシー等、自らの学び直しの機会の充実が求められている。
 ○市民が生涯にわたって学び続けることができるよう、**それぞれのニーズに応じた自主的な学びの場の提供**(多様な学習機会の情報提供)を含めた生涯学習のあり方の検討が必要である。

めざす姿

三次の歴史・伝統・文化が大切にされ、市民が親しみ、誇りを持っていてとともに、生涯を通じて喜びを感じながら学ぶことで、心豊かに暮らしている。

施策分野の目標指標	現状値	中間値 (令和10年度)	目標値 (令和15年度)
「地域の伝統文化を保存継承している」と思う市民の割合	54.8 39.4% (令和4年度)	60 45%	65 50%
過去1年間に芸術・文化を鑑賞・体験等した市民の割合	—	25%	50%

施策 1	地域文化資源の活用による芸術・文化の振興			
	主な取組	めざす姿		
	<ul style="list-style-type: none"> ●奥田元宋・小由女美術館を核とした良質な芸術鑑賞機会を提供するとともに、各施設を活かして芸術・文化を発信する。 ●市民ホールをはじめとする文化施設を活かした芸術・文化の育成と普及を図る。 ●市民の芸術・文化活動の発表の場を提供する。 	三次の豊かな文化資源を積極的に有効活用し、市民が歴史・文化・芸術に親しむ環境の充実が図られている。		
	重要業績評価指標 (KPI)	現状値	中間値	目標値
	美術館の入館者数	70,472人 (令和4年度)	74,000人	78,000人
	文化施設の入館者数	59,432人 (令和4年度)	78,000人	98,000人

施策 2	歴史・伝統・文化の継承と地域の誇りの醸成			
	主な取組	めざす姿		
	<ul style="list-style-type: none"> ●デジタル技術を活用し、文化財の計画的保護と情報発信を推進する。 ●三次の歴史や伝統文化に学び、保存・継承するための学習機会の提供や人材育成などに取り組む。 ●もののけや鶴飼、神楽などの本市が誇る伝統・文化の継承と新たな価値を創造する。 	三次の豊かな地域資源を適切に保存し、市民が地域の歴史や伝統・芸術・文化を学び、活動することで、地域の誇りを醸成している。		
	重要業績評価指標 (KPI)	現状値	中間値	目標値
	資料館の入館者数	3,946人 (令和4年度)	5,799大 5,800人	7,651大 7,600人
	「昔からあるお祭りなど地域の伝統が大切にされている」と思うイメージを持つ中高生の割合	83.2% (令和4年度)	現状維持	現状維持

施策 3	生涯を通じた学びの推進			
	主な取組	めざす姿		
	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニティセンターを中心とした地域における生涯学習を推進する中で、世代を越えたつながりや学びあいにつなげる。 ●市民が集い、豊かな心を育む図書館事業を推進する。 ●三次(地域)を学び、愛着を育む生涯学習機会の提供と環境づくりを推進する。 	あらゆる世代が生涯を通じて学び続け、地域社会に貢献するなど、つながりの中で、生きがいをもって暮らしている。		
	重要業績評価指標 (KPI)	現状値	中間値	目標値
	一人あたりの図書貸出冊数(図書貸出冊数/利用者)	48冊 (令和4年度)	54冊	60冊
	文化に関する出前講座・生涯学習事業等参加者数	537人 (令和4年度)	600人	700人

SDGs																	
	貧困をなくそう	飢餓をゼロに	すべての人に健康と福祉を	質の高い教育をみんなに	ジェンダー平等を実現しよう	安全な水とトイレを世界中に	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	働きがいも経済成長も	産業と技術革新の基盤をつくろう	人や国の不平等をなくそう	住み続けられるまちづくりを	つくる責任 つかう責任	気候変動に具体的な対策を	海の豊かさを守ろう	陸の豊かさを守ろう	平和と公正をすべての人に	パートナーシップで目標を達成しよう

政策	4	豊かな心と生きがい
----	---	-----------

施策分野	2	スポーツ
------	---	------

現状・課題

(市民誰もがスポーツを楽しめる環境)
 ○多様なスポーツができる環境(スケート・トライアルパーク、きりりパーク等)の整備を進めた。**充実したスポーツ施設を活用しながら、ライフステージや目的に応じて気軽にスポーツを楽しめる環境づくり、誰もが一緒にスポーツを楽しめる環境づくり(パラスポーツ文化の構築)、生涯スポーツ等を推進する必要がある。**
 ○競技スポーツや生涯スポーツを推進するためには、**指導者や有資格者などの人材の育成・確保を進めるとともに、指導力の資質向上を図る必要がある。**

(スポーツを通じた健康づくり)
 ○チャレンジデーやウォーキング教室などのイベントを実施し、スポーツを通じた健康づくりを推進しているが、参加者数は減少しており、市民の運動の習慣化にはつながっていない。生活習慣病や認知症等の予防の観点からも、**日常的に身体を動かす市民を増やし、健康増進・健康寿命延伸に向けた取組が必要である。**
 ○市内の施設(健康づくりセンター、トレーニング施設等)の活用を進め、**市民への普及啓発(三次版チャレンジデー、やってみたいと思えるパンフレットづくりなど)を一層進める必要がある。**

(子どもを取り巻くスポーツ環境)
 ○少子化により、子どもを取り巻くスポーツ環境は厳しい。また、子どもの体力・運動機能は低下(体力は全国平均と同水準、走力及び持久力は十分ではない)している。運動能力の向上を含め、部活動環境の確保など**子どもたちがやりたいスポーツができる環境づくりを進める必要がある。**
 ○プロスポーツの観戦やトップアスリートによる指導・交流の機会を積極的に創出することで、**子どもたちがスポーツに親しむ機会を創出するとともに、子どもたちの夢を応援する。**

(スポーツによる地域活性化)
 ○「三次版スポーツコミッション」を中心に、**スポーツを通じた交流促進等による地域活性化と大会や合宿誘致など市外からの誘客を進める。**
 ○女子スポーツ(女子野球や女子サッカーなど)を推進し、シティプロモーションや関係人口の創出により、地域の活性化につなげる。

めざす姿

それぞれのライフステージに応じて「いつでも」「どこでも」「誰も」が生活の中でスポーツに親しみ、活力あふれる“スポーツのまちみよし”

施策分野の目標指標	現状値	中間値 (令和10年度)	目標値 (令和15年度)
週1回以上運動・スポーツ実施率	33% (令和4年度)	50%	65%
「『スポーツのまちみよし』にふさわしい運動・スポーツが盛んなまち」と思う市民の割合	38.9% (令和4年度)	50%	60.0% 80%

施策 1 誰もがスポーツを楽しめる環境づくり		めざす姿			
主な取組		めざす姿			
<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ施設等を活用して、様々なつながりの中で、誰もが一緒に楽しめる環境づくりを推進する。 ●スポーツ推進委員をはじめとする人材の育成・確保、指導力の向上を図り、生涯スポーツや競技スポーツを推進するとともに、パラスポーツやインクルーシブスポーツの普及を図る。 ●三次版チャレンジデーの実施など、誰もが気軽に取り組めるスポーツの普及啓発を推進する。 		年齢・性別・障害の有無を問わず、多様なつながりの中で、誰もが一緒にスポーツを楽しめる環境がある。			
重要業績評価指標 (KPI)		現状値	中間値	目標値	
スポーツを全くしていない市民の割合		29.6% (令和4年度)	20%	10%	

※下記指標を削除
 ・地域活動の中で「スポーツ・レクリエーション活動」をしている市民の割合

施策 2 子どもたちがスポーツに親しむ機会の創出		めざす姿			
主な取組		めざす姿			
<ul style="list-style-type: none"> ●やりたいスポーツができる環境づくりを進め、子どもの体力・運動機能の向上を図るとともに、地域のつながりの中で、スポーツと親しむ機会を提供する。 ●トップアスリートやトップチームとの交流を通じて、スポーツをしていない、または苦手な子どもたちにスポーツの楽しさや魅力を知ってもらうきっかけづくりを推進する。 ●スポーツを体験した子どもたちが、より高いレベルを体験できるよう、スポーツスクールやクリニック(スポーツ教室)などの機会を提供する。 		子どもの頃から、スポーツを見て、体験することで、子どもの体力・運動能力が向上するとともに、スポーツの楽しさを知り、スポーツに親しみ、大人になってもスポーツを楽しめている。			
重要業績評価指標 (KPI)		現状値	中間値	目標値	
普段、スポーツをほとんど・全くしていない中高生の割合		26% (令和4年度)	20%	10%	
中高生がクラブ(運動・スポーツ)などに所属している割合		43.0% (令和4年度)	50%	60%	

施策 3 スポーツによる地域活性化の推進

主な取組		めざす姿			
<ul style="list-style-type: none"> ●官民共創の「スポーツコミッション」を設立し、地域や経済の活性化や女子スポーツを推進する。 ●地域資源を活かした大会や合宿の誘致、イベントの開催を通じた交流により、地域や経済の活性化を図る。 ●女子スポーツの推進により、女性が住みやすく、活躍できる環境づくりを推進する。 		市内のスポーツ資源を活用し、「スポーツコミッション」による官民の連携・共創により、新たなつながりが生まれ、地域が活性化している。			
重要業績評価指標 (KPI)		現状値	中間値	目標値	
総観光客数のうちスポーツ関連を目的にした観光客数		244千人 (令和4年度)	300千人	350千人	
スポーツ大会開催数/合宿団体数		25件/75団体 (令和4年度)	30件/85団体	35件/90団体	
女子スポーツ振興について「知っている」市民の割合		23.8% (令和4年度)	50% 40.0%	80% 50.0%	

※下記指標を削除
 ・「スポーツのまちみよし」にふさわしい運動・スポーツが盛んなまちと思う市民の割合⇒施策分野の目標指標に移行

SDGs	1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさを守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう
------	-----------	----------	----------------	---------------	-----------------	-----------------	----------------------	--------------	-------------------	-----------------	------------------	---------------	-----------------	--------------	--------------	-----------------	----------------------

政策	5	いきいきとした地域
----	----------	-----------

施策分野	1	定住・交流
------	----------	-------

現状・課題

(定住・移住)
 ○全国的な人口減少・少子高齢化が進行する中、その流れを覆すことは容易ではないが、まずは、人口減少・少子高齢化社会がもたらす課題と向き合いながらも、人口減少そのものを最小限に抑制することが必要である。
 ○転出・転入状況から、(進学・就職を機に)15歳から24歳までの期間での転出超過が顕著である。若者にとって魅力的な幅広い働き口(電気・IT・デザイン・機械系等、学んだことや資格を活かせる等)、産休・育休の取得のしやすさ、労働時間・スタイルの選択ができる、副業による収入やスキルの取得等ができるなど、多様な働き方が実現できる施策・環境づくりが必要である。
 ○価値観や意識の変化、デジタル化の加速による地方移住への関心の高まりを背景に、**都市と三次の二拠点生活を推進し、働く場所・住む場所に捉われず様々な地域とのつながり・関わり合いを推進する必要がある。**
 ○実際に移住した方にヒアリングするなど、**移住希望者等のニーズを捉えた制度改善**(空き家の改築・修繕、~~家財等処分~~の負担軽減、Uターン者への充実した支援策等)により、**移住・定住支援策を柔軟に改善する必要がある。**
 ○増加する外国人への支援(生活相談や日本語教室等の取組)の充実、医療・防災・教育・仕事などの様々な分野において、安心して生活できる環境整備に向けた具体的な取組を検討・実施する必要がある。
 ○未婚率の改善に向け、**出会いの場の創出など地域の婚活支援策の支援などに取り組む必要がある。**
 ○子どものころから、地域や住民との関わりを通じて、地域への郷土愛の醸成を図り、一旦三次を離れても、ふるさとを想いつづけ、「三次市に住み続けたい、帰ってきたい」と思う人材育成を進める必要がある。
 ○**子育て世代の負担軽減(人的・財政的支援)をはじめ、保育、教育、医療、交通、仕事など様々な分野で支援策を進めながら、働きながら安心して子育てができる環境づくりなど子育て世代が住みやすいまちづくりを進める必要がある。**
 ○集落・地域の維持、共助の観点から、**移住者(特にUターン)が地域で孤立しないよう、地域との関わりが持てる取組を進める必要がある。**
 ○**移住・定住ポータルサイトを有効的に活用し、三次が保有する地域資源を最大限に活用しながら、住まい・子育て・しごと等移住に必要な情報や支援策、魅力ある情報**(三次のあったかさ、田舎ならではの良さなど)**を積極的に発信するとともに、移住コーディネーターや集落支援員と連携した相談体制等の取組をより強化する必要がある。**

(交流)
 ○将来的な人口減少が現実視される中、人口規模に目を向けるだけでは、地域の活力を維持することは困難である。短期的に本市を訪れ、滞在する「交流人口」を増やすこと、また本市に関心を寄せながらつながりを持つ「関係人口」の輪を広げることで、多様な地域課題の解決につなげ、地域の活性化につなげる必要がある。
 ○交流人口(通勤や通学、買い物、観光、スポーツ、レジャーで訪問・滞在する人)を増やすことで、地域経済の活性化を図る。特に、**きんさい祭のようなイベントや若者に魅力ある場所を創出することで、交流を促進する。**昼間人口(市内への通勤・通学の流入者)が常住人口を上回るという特徴を活かし、就業・就学環境の維持・強化を図ることで地域経済の活性化を一層進めるとともに、新たなつながりの創出につなげる必要がある。
 ○**関係人口**(地域とのかかわりを持つ方(三次にルーツがある、勤務・滞在・居住などのゆかりがあり、行き来することがある、ふるさと納税寄付附者など))が**継続的につながりを持てるようなくみづくり**(情報発信、デジタル技術活用したつながり、交流など)を進め、地域への愛着度の醸成・地域づくり活動への参画へ発展させる必要がある。
 ○**三次につながるをもち、応援してくれる「ふるさとサポーター」の役割を明確化する中で、地域との持続的なつながりを維持し、市内外への魅力発信を強化する必要がある。**

めざす姿

住みたい、住み続けたい、帰ってきたいと思える、それが実現できている。

施策分野の目標指標	現状値	中間値 (令和10年度)	目標値 (令和15年度)
「三次に住み続けたい」と思う市民の割合(18歳以上)	79.2% (令和4年度)	82%	85%
三次に住み続けたいと思う中高生の割合 「三次に住み続けたい、将来戻ってきたい」と思う中高生の割合	37.8% 34.7% (令和4年度)	50%	60%
社会動態(転入者数-転出者数)	▲125人 (令和4年度)	▲17人	16人

施策 1	いつまでも住み続けたい、定住の推進			
	主な取組	めざす姿		
	<ul style="list-style-type: none"> ●三次の魅力を発掘・創出し、広く発信することで、三次の認知度の向上を図り、人的・デジタルネットワークの構築を進めることで、三次への愛着を深める。 ●年代・性別などを越えて、双方向での対話・交流事業を推進する。 ●出会いの場の創出や地域の婚活支援策を促進する。 	市民の三次に対する愛着が向上し、三次市の魅力を市内外に効果的に訴求することで、しあわせを感じながら暮らす市民が増加している。		
	重要業績評価指標(KPI)	現状値	中間値	目標値
	市民の愛着度(18歳以上) 市民の愛着度(中高生)	74.6% 80.4% <small>(令和4年度)</small>	78% 82%	82% 85%

施策 2	いいかも三次暮らし、移住の推進			
	主な取組	めざす姿		
	<ul style="list-style-type: none"> ●移住・定住ポータルサイトを活用し、三次の暮らしやすさや魅力あるライフスタイルを情報発信する。 ●移住コーディネーターと集落支援員によるニーズに応じた移住のサポートを進めるとともに、受け皿となる空き家の有効活用を図る。 ●移住者が孤立せず、安心して暮らせるようなくみづくりを推進する。 ●デジタル技術を活用し、都会と地方、地方と地方を行き来する二拠点生活(デュアルライフ)など、場所に捉われずに暮らせる環境づくりを推進する。 	積極的・効果的な情報発信や適切な相談対応により、移住者が増加している。また、三次の暮らしやすさが浸透し、一度三次から転出した人が三次に帰ってきて、自分らしい暮らしができています。		
	重要業績評価指標(KPI)	現状値	中間値	目標値
	市の支援策を利用して移住した人数	210人 <small>(令和4年度)</small>	230人	250人

施策 3	人と人を結ぶ、交流の推進			
	主な取組	めざす姿		
	<ul style="list-style-type: none"> ●ふるさと納税をはじめ、市外にいながら継続的に三次に関心を寄せ、応援してくれる関係人口ツナガリ人口の拡大を推進する。 ●大学生や地域おこし協力隊など、市外の人と一緒にまちづくりを進め、地域の課題解決や活性化につなげる。 ●きんさい祭などを通じた若者に魅力ある機会・場所を創出する。 	市内・市外に関わらず、多様な人々がつながり、関わり合うことで、三次への愛着や地域の活力につなげる。		
	重要業績評価指標(KPI)	現状値	中間値	目標値
	ふるさと納税件数	6,009件 <small>(令和4年度)</small>	10,000件	18,000件

施策 3	人と人を結ぶ、交流の推進	ふるさとサポーター登録者数	912901人 <small>(令和4年度)</small>	2,500人	4,000人
		ふるさとサポーターが地域活動に関わった件数(累計)	2件 <small>(令和4年度)</small>	20件	40件

SDGs	1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさを守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリシップで目標を達成しよう
	貧困をなくそう	飢餓をゼロに	すべての人に健康と福祉を	質の高い教育をみんなに	ジェンダー平等を実現しよう	安全な水とトイレを世界中に	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	働きがいも経済成長も	産業と技術革新の基盤をつくろう	人や国の不平等をなくそう	住み続けられるまちづくりを	つくる責任 つかう責任	気候変動に具体的な対策を	海の豊かさを守ろう	陸の豊かさを守ろう	平和と公正をすべての人に	パートナーシップで目標を達成しよう

政策	5	いきいきとした地域
----	---	-----------

施策分野	2	住民自治
------	---	------

現状・課題

(住民自治組織)
 ○市民と行政による協働のまちづくりを進めるため、地域社会を支える組織として住民自治組織を中心としたまちづくりを進めてきたが、人口減少・少子高齢化の進行をはじめ、核家族化や単身世帯の増加、価値観やライフスタイルの多様化等を背景に、**地域活動への参加者、まちづくりを支える後継者・担い手・人材不足**(住民自治組織の役員、地域イベント・祭りの運営など)の課題が生じている。
 ○各地域では、まちづくりビジョンの実現に向けて、地域の特性を生かした多彩なイベント等が開催されているが、コロナ禍の影響により、地域行事や集まる場が縮減されたことで、地域住民同志のつながりの希薄化、再始動の負担感が大きくなっている。
 ○**住民自治組織と目的型コミュニティ(NPO法人、任意団体、協同労働等)**、**地域内の起業家や活動者との連携が図られている地域もあるが、全市域への広がりは見られない。**
 ○**若い世代を中心に地域活動への参画が図られる仕組み作り**(気軽にチャレンジできる、若い人の意見を地域が積極的に受け入れる、※アンケート調査で高順位だった参加したい分野:健康づくりやスポーツ・レクリエーションなど)を進め、従来の方法に捉われず、規模・方法・仕組み等を見直し、人口が減る中でも持続できるまちづくりの運営を検討する必要がある。
 ○地域づくりへ参加しやすくするためには、市民アンケート調査結果からみると、「会員にならなくても参加できる」「広報・啓発の工夫」「参加しやすい時間帯・曜日設定」などを考慮する必要がある。
 ○**個々での取組(起業・活動)を地域内のまちづくりにつなげるしくみが必要である。**
 ○まちづくり活動を支援する「まちづくりサポートセンター」の機能を十分に機能させるとともに、集落支援員等との連携により、地域内や地域と行政の対話を促進する必要がある。
 ○住民自治組織が担う活動内容は多岐にわたっているが、今後ますます人口減少が進む中、住民自治組織と行政の連携を進めるとともに、役割分担について、本質的な方向性を検討・見直しする必要がある。
 (自治会・常会など)
 ○自治会・常会への加入者・戸数の減少、離脱等により、自治会活動の維持が困難となっている地域がある。自治会・常会の在り方について、防災減災・防犯・環境維持という視点・切り口からの加入促進を図る必要がある。また、**負担感の軽減**(ボランティアだけに頼らない)による**継続できる仕組みづくり**、**人のつながりを活かして自然とまちづくりに参画できる仕組みづくりに取り組む必要がある。**
 ○**若い世代や女性の参画を促進し、世代・性別を超えて、対話・議論できる場・時間を創出することが必要である。**
 ○移住者や外国人などが地域から孤立することなく馴染めるよう、地域の受け入れ態勢・住民の意識改革が必要である。

めざす姿

多様な主体のつながりにより、協働のまちづくりが進んでいる。

施策分野の目標指標	現状値	中間値 (令和10年度)	目標値 (令和15年度)
まちづくりに参加している人の割合	54.9% (令和4年度)	60%	70%

施策 1	共創のまちづくりの推進			
	主な取組	めざす姿		
	<ul style="list-style-type: none"> ●住民自治組織などの地縁型コミュニティ(自治会・常会等)と目的型コミュニティ(NPO法人、任意団体、協同労働等)の連携による、特色あるまちづくりを伴走支援する。 ●地域課題解決のために、地域と小中高校・大学・企業等とが連携した取組ができるよう支援する。 	住民自治組織を中心とした地域主体の活動をはじめ、市民協働の取組により、特色あるまちづくりが進んでいる。		
		重要業績評価指標(KPI)	現状値	中間値
「市民と行政が協働でまちづくりを進めている」と感じる市民の割合		20.7% (令和4年度)	25%	30%
	大連連携協定により課題解決に取り組む件数(累計)	2件 (令和4年度)	10件	15件

施策 2	多様なつながりを活かした地域づくり			
	主な取組	めざす姿		
	<ul style="list-style-type: none"> ●市内外を問わず、若い世代や女性、企業者、外国人など様々な人が、対話や集うことを通じて、気軽に楽しくまちづくりに関わることができる持続可能なしくみや場所づくりを推進する。 ●地域と「地域に関わりたい人」のつながりを促進し、地域課題の解決につなげる。 ●有償ボランティアのしくみなど、新たなつながりによる持続可能な地域づくりに取り組む。 	市内外を問わず多様な主体がつながりあい、気軽に楽しくまちづくりに参画することで、地域の担い手の確保・育成につながり、地域に活力が生まれている。		
		重要業績評価指標(KPI)	現状値	中間値
地域行事が盛んでまちに元気があると思う市民の割合		21.9% (令和4年度)	25%	30%
	地域と「地域に関わりたい人」のマッチング件数(累計)	—	5件	10件

SDGs	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	貧困をなくそう	肌腹をゼロに	すべての人に健康と福祉を	質の高い教育をみんなに	ジェンダー平等を実現しよう	安全な水とトイレを世界中に	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	働きがいも経済成長も	産業と技術革新の基盤をつくろう	人や国の不平等をなくそう	住み続けられるまちづくりを	つくる責任つかう責任	気候変動に具体的な対策を	海の豊かさを守ろう	陸の豊かさを守ろう	平和と公正をすべての人に	パートナーシップで目標を達成しよう

政策	6	活力ある産業
----	----------	--------

施策分野	1	農林畜産
------	----------	------

現状・課題

(担い手の育成・強化)
 ○**農業者アンケート調査では、認定農業者等の34%が「後継者が確保できない」状況にある。**こうした農家の経営資源（農地や施設、生産ノウハウ等）を意欲ある経営体に継承できる仕組みづくりや、地域農業の中心的な**担い手（認定農業者等）の育成・確保**の強化が必要である。また、農業の魅力発信と交流の促進に向け、6次産品化による農産物の販売強化、「農業体験」を起点に、様々な体験コンテンツを活用したつながりの創出により、半農半Xなど**多様な形で農業に関わる人口を増やし、新たな担い手につなげる必要がある。**

(生産力・販売力の強化)
 ○果樹花きの販売額や、野菜の生産面積、肉用牛飼養頭数は概ね横ばいで維持できているものの、今後さらに担い手の育成・確保とICT等を活用した省力化、**生産性の向上や栽培技術の向上**を一体的に図る必要がある。また、薬用作物をはじめとする遊休農地等を活用した、**新たな品目の生産を推進する必要がある。**

○トレッタみよしの売上は増加傾向にあり、「みよしブランド」認定品や「地産地消の店」認定店も概ね横ばいで推移している。SNS等を活用した農畜産物の発信や、ニーズにマッチした支援制度等については、継続した調査・研究が求められている。また、農畜産物の魅力向上による販路拡大、地産地消の推進による学校給食への農産物の供給、食農教育を進めるとともに、トレッタみよしを核とした**販売力強化を一層進め、農畜産業で豊かに暮らせる環境づくりが必要である。**

(有害鳥獣の対策)
 ○**有害鳥獣被害により、餌・捕獲頭数ともに増加しており、営農意欲の減退や耕作放棄地の増加等につながっている。**残す農地・守る農地を明確にするとともに、**被害の防止・低減に向け、より効果的かつ省力的に取り組む**ことができるよう、国県等との連携を図りながら、実施体制の強化や新たな技術の導入を進める必要がある。

(農地等の保全)
 ○**総農畜数の減少等を背景に、耕作放棄地の更なる増加や農業・農村が有する多面的機能の低下が懸念されている。**担い手が減少する中で、**地域ぐるみによる農業・農村資源の保全と活用促進に向けた仕組みづくりが必要である。**
 ○**手入れがされなくなった森林が増加しており、土砂災害等が懸念される。森林経営管理制度の取組を進め、計画的な森林整備を行うことで、災害の未然防止、森林の多面的機能の発揮及び林業の成長産業化、災害防止**を図るとともに、地域資源としての木材の活用を促進する必要がある。

(その他)
 ○**デジタル技術を活用した農作業の省力化や、栽培・経営管理の高度化、生産性の向上、鳥獣対策等の推進が必要である。**
 ○**農畜産物の魅力発信するとともに、観光交流を通じた新たな産業の創出に向け、官民が連携して、農畜産物の魅力発信及び農業所得の向上を図るため、（仮称）みよしアグリパークの整備を進め、トレッタみよし周辺エリアの魅力をさらに高めていく。観光と一体となった農業を展開する必要がある。**

○カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現に向け、適切な森林整備や木材の活用など、国の施策・動向等も踏まえた具体的な取組を検討していく必要がある。

めざす姿

多様な人材 担い手により、持続可能な農林畜産業が確立されている。

施策分野の目標指標	現状値	中間値 (令和10年度)	目標値 (令和15年度)
市内総生産額（農業・林業）	5,548百万円 (令和4年度)	5,600百万円	5,650百万円

施策	1	農林畜産業・農村を支える多様な担い手の育成・確保				
		主な取組	めざす姿			
		<ul style="list-style-type: none"> ●独立して就農できる経営モデルを確立し、関係機関が一体となって、次世代の担い手となる新規就農者の育成に取り組む。 ●認定農業者、集落法人などの担い手への農地集積や、経営規模拡大に対する支援を行い、農地の有効活用や生産の効率化を図るとともに、地域農業の中核となる担い手を育成する。 ●関係機関・団体と連携した食農教育や農業体験の取組を含め幅広い支援策を講じる。 	認定新規就農者、認定農業者、集落法人などの担い手への農地集積が進み、安定した経営が行われている。また、若者や女性、半農半Xなど、多様な人材により地域農業が維持されている。			
			重要業績評価指標（KPI）	現状値	中間値	目標値
			認定新規就農者数（累計）	35人 (令和4年度)	50人	60人
			農地集積率	37% (令和4年度)	45%	50%
			受入研修生のうち、研修後に就農した人数（ 受入研修生 ）	9人 (9)	20人 (20)	30人 (30)

施策	2	地域の特性を活かした農畜産物の生産力・販売力の強化				
		主な取組	めざす姿			
		<ul style="list-style-type: none"> ●振興作物（重点品目）などの作付面積拡大や生産性の向上などに必要な支援を行うとともに、農畜産物の魅力発信やブランド化の推進による競争力の強化、販路拡大に取り組む。 ●スマート農業（ICTの導入）を推進し、農作業の省力化と効率化を図る。 ●水田などの地域資源を活かし、国内産需要が高まっている薬用作物について、栽培技術の確立や販路確保などにより産地化を進め、農業所得の向上及び農福連携の推進につなげる。 ●集客力のある酒屋エリアに、産地を支える消費者と地域農業がつながる拠点施設を形成し、観光と一体となった農業を推進する。観光拠点エリアである酒屋地区に、観光客、農畜産物生産者、企業、市民が魅力を感じる、滞在型の観光拠点を形成する。 	振興作物、果樹・花き、薬用作物及び畜産物の生産が拡大し、（仮称）みよしアグリパークの整備により、観光と一体となった農業が展開されている。また、デジタル技術の活用により農作業の省力化と効率化が図られるとともに、みよしブランド認定により市内農畜産物の競争力が強化されている。			
			重要業績評価指標（KPI）	現状値	中間値	目標値
			振興作物（重点品目）の作付面積	102.8ha (令和4年度)	125ha	130ha
			薬用作物の作付面積	3.4a (令和4年度)	1.5ha	3.0ha
			農産物直売施設等販売額	457百万円 (令和4年度)	480百万円	528百万円

施策 3 総合的な鳥獣被害防止対策の推進

		主な取組	めざす姿			
		<ul style="list-style-type: none"> ●集落ぐるみでの総合的な鳥獣被害防止対策を支援する。 ●有害鳥獣駆除班と地域が連携した、効果的で効率的な捕獲体制・駆除活動を推進し、被害の軽減を図る。 	集落ぐるみでの農地の維持管理により、農地が保全されるとともに、デジタル技術をも活用した集落ぐるみによる有害鳥獣対策が広まり、有害鳥獣による農作物被害額が減少している。			
			重要業績評価指標（KPI）	現状値	中間値	目標値
			有害鳥獣被害対策取組集落数（累計）	32集落 (令和4年度)	90集落	140集落
			農作物被害額（イノシシ・シカ）	27,540千円 (令和4年度)	18,700千円	15,900千円

施策 4 次代につなぐ、美しい農村・森林環境の保全

		主な取組	めざす姿			
		<ul style="list-style-type: none"> ●農業・農村の有する多面的機能の維持、保全管理など、集落の取組を後押しする。 ●生産性の高い、持続可能な生産基盤の整備に取り組む。 ●災害の未然防止及び森林が持つ多面的機能の維持向上を図るため、森林環境譲与税を財源とし、公共施設周辺の整備、危険木の伐採、計画的な森林整備等に取り組む。 	計画的な森林整備により、森林が持つ多面的機能が維持されている。集落ぐるみの農地保全活動や、基盤整備により、持続可能な農村環境が維持できている。			
			重要業績評価指標（KPI）	現状値	中間値	目標値
			森林経営管理事業による、保育間伐実施面積（累計）	51ha (令和4年度)	125ha	250ha
			中山間地域等直接支払交付金の広域化協定数累計（全体協定数）	9協定（234） (令和5年度)	11協定（221）	13協定（217）
			多面的機能支払交付金の広域化協定数累計（全体協定数）	0協定（159） (令和5年度)	2協定（142）	4協定（138）

SDGs																	
	貧困をなくそう	飢餓をゼロに	すべての人に健康と福祉を	質の高い教育をみんなに	ジェンダー平等を実現しよう	安全な水とトイレを世界中に	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	働きがいも経済成長も	産業と技術革新の基盤をつくろう	人や国の不平等をなくそう	住み続けられるまちづくりを	つくる責任 つかう責任	気候変動に具体的な対策を	海の豊かさを守ろう	陸の豊かさを守ろう	平和と公正をすべての人に	パートナーシップで目標を達成しよう

政策	6	活力ある産業
----	----------	--------

施策分野	2	商工
------	----------	----

現状・課題

(人材確保・育成)
 ○多くの業種において、慢性的な人材・労働力不足が生じており、後継者不足と相まって、企業活動の停滞・縮小が懸念される。時代や企業ニーズに応じた人材確保やスキルアップ、事業承継支援等の取組強化が必要である。
 ○高齢者の就労促進、外国人労働者や外国人材の受入に向けた具体的な検討が必要である。

(企業誘致・支援)
 ○産業用地への企業誘致等による雇用機会を増大する必要がある。若者にとって魅力的なIT・デザイン・機械系など幅広い働き口や、学んだことや資格を活かせる場を創出することで、帰ってきたくなるまちへと繋げる必要がある。また、既存企業が市外に移転しないための事業継続、設備投資に対する効果的な支援策を検討する必要がある。
 ○急激に加速する技術革新や、新しい生活様式など社会構造の変化に対応できなければ、地域経済の更なる停滞を招く恐れがある。デジタル技術やビッグデータを活用した生産性の向上や付加価値を創出するために必要な知識・スキルの習得・活用を支援するとともに、時代の変化に応じた研究開発や実装等を支援する必要がある。

(にぎわい創出、起業支援)
 ○商店数の減少が続いており、市域を超えて集客できる店舗も多いとは言えない。女性を中心に起業者は増えているが、運営状況の把握やフォロー体制、支援制度の周知が十分ではないという声もあるので、周知に工夫する必要がある。地元商店等の利用促進や、活力あるお店づくり、商店街振興を含めた起業支援を強化するとともに、にぎわいの創出や地域経済の好循環(「稼げる」仕組みづくり)につなげるための取組を検討・実施する必要がある。
 ○若者が「楽しみ・交流できる場」の創出や、若者が夢を持って「稼げる」・「チャレンジできる」環境づくりが必要である。

(就労促進、多様な働き方、自己実現)
 ○就労の場の確保や、コワーキング施設など多様な働き方に対応できる環境整備を進めるとともに、学校と市内企業等のつながりを深め、市内企業への就労を促進する必要がある。
 ○年齢・性別・障害の有無等に関わらず全ての人が、自らが望むワークスタイルが実現できるよう支援が必要である。また、若年期からのキャリア教育などにより、多様な就労形態を紹介するとともに、キャリアアップや学び直し(リスキリング)など、仕事を通じた自己実現を支援する必要がある。
 ○協同労働や仕事シェアなど、「つながり」を起点とした新たな仕事(働く場・働き方)の創出を支援する取組が必要である。

めざす姿

地元企業の経営力強化や生産力向上を推進するとともに、
 企業誘致、起業、新たな仕事の創出が図られ、市経済が活性化している。

施策分野の目標指標	現状値	中間値 (令和10年度)	目標値 (令和15年度)
就業者一人あたり市内総生産額	6,508千円 (令和2年度)	6,640千円	6,738千円
「働くところがたくさんある」と思う市民 中高生の割合	42.6% 10.5% (令和4年度)	50% 11%	60% 11.5%

施策 1 中小事業者の経営安定・強化				
主な取組		めざす姿		
<ul style="list-style-type: none"> ●販路拡大等の支援や金融支援を行うとともに、関係機関と連携して事業継続に向けた支援を行い、経営力の安定・強化につなげる。 ●事業承継を後押しし、経営者の高齢化や後継者不足による廃業防止に取り組む。 ●地元商店等の利用促進や、デジタル化を通じた生産性向上や新たな付加価値の創出など環境変化への対応を支援するとともに、稼げるしくみづくりを進め、地域経済の好循環につなげる。 		関係機関を通じた既存事業者への経営指導や市の補助制度などにより、経営力の強化が図られている。		
重要業績評価指標 (KPI)		現状値	中間値	目標値
事業所数		2,875所 (令和3年)	現状維持	現状維持
事業承継件数 (累計)		1件 (令和4年度)	5件	10件

施策 2 企業誘致、起業、人材・就労の場の確保				
主な取組		めざす姿		
<ul style="list-style-type: none"> ●移住者の受け皿や若年層の転出超過の減少につながる企業誘致や、企業の設備投資を後押しすることで雇用の維持・拡大、企業の留置に取り組む。 ●外国人材を含め多様な人材による労働力の確保と環境整備、スキルアップやリスキリングによる人材育成を図るとともに、企業と移住者、学校などとのマッチングに取り組み、市内企業への就労を促進する。 ●効果的な起業支援を推進する。 		企業の求める人材や、多様な働き方に対応した雇用の場が確保され、Uターンや移住者の受け皿にもなり、若年層の転出超過が減少している。		
重要業績評価指標 (KPI)		現状値	中間値	目標値
サテライトオフィス延べ誘致件数		1件 (令和4年度)	5件	10件
市内企業の就業者数		28,730人 27,224人 (令和2年度)	現状維持	現状維持
起業件数 ※市の補助制度活用		年間9件 (令和4年度)	年間10件	年間10件

SDGs	1 貧困をなくそう	2 飢餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさを守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナリーシップで目標を達成しよう
	貧困をなくそう	飢餓をゼロに	すべての人に健康と福祉を	質の高い教育をみんなに	ジェンダー平等を実現しよう	安全な水とトイレを世界中に	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	働きがいも経済成長も	産業と技術革新の基盤をつくろう	人や国の不平等をなくそう	住み続けられるまちづくりを	つくる責任 つかう責任	気候変動に具体的な対策を	海の豊かさを守ろう	陸の豊かさを守ろう	平和と公正をすべての人に	パートナーシップで目標を達成しよう

政策	6	活力ある産業
----	----------	--------

施策分野	3	観光
------	----------	----

現状・課題

(稼ぐ力の創出)
 ○「稼ぐ」視点をもち、DMOを中心に観光消費拡大に向けた取組を進めているが、**1人あたりの観光消費額は県平均を大きく下回っており、産業成長の可能性が十分にある**。観光の魅力となる体験・食事・お土産の付加価値を高める(魅力の向上)とともに、観光大使や若者の力を活用した訴求力あるプロモーション等(魅力の発信)を行い、**市外からの来訪者に観光消費を促す取組を引き続き強化する必要がある**。
 ○**日帰り観光が大半を占めており、消費低迷の要因の1つとなっている。宿泊(を伴う観光)へのシフトや周遊促進を図るとともに**、ひとの流れを地域経済の活性化につなぎ、市内全体に経済効果を波及させる仕組みづくりが必要である。
 ○**質の高い旅行を求める傾向が高まっており、「モノ消費」から「コト消費」へ志向が変化している**。観る観光から体験する観光へのシフトを進め、地域資源を活用した**体験メニューの開発や、ツアー造成など商品化の取組を一層進める必要がある**。
 ○**備北地区を来訪する外国人観光客は県全体の1%未満である**。外国人の嗜好に応じた観光プロダクトの開発等を進め、1人あたりの観光消費額が高い訪日外国人観光客を呼び込むための取組を強化する必要がある。

(受入環境)
 ○三次駅前観光案内所を中心に受入環境の整備を進めた結果、日本政府観光局(JNTO)が認定する外国人観光案内所の認定を受けた。引き続き、観光情報を適切に提供する仕組みづくりを強化する必要がある。また、養成された観光ガイドの技術向上と適所配置、観光事業者等のおもてなし力の向上を図る必要がある。加えて、市内の観光資源やイベントが魅力あるものとして市民に浸透し、市民一人ひとりが心から自信をもっておすすめできるよう、ホスピタリティ醸成に向けた取組を推進していく必要がある。
 ○訪日外国人の誘客促進に向けて、無料Wi-Fiの整備や、観光情報の多言語化など、**外国人観光客の着地整備を着実に進める必要がある**。
 ○自然災害の多発やコロナ禍によって、安全・安心へのニーズが高まるとともに、ワーケーションなど観光の形も多様化している。時代に対応した施策を展開し、市内の交通システムの改善を含め、**すべての観光客が快適に旅行を満喫できる環境整備を進める必要がある**。

(推進体制)
 ○三次市観光戦略に基づき、観光推進組織の一本化ができたことから、三次観光推進機構が中心となって、訪日外国人旅行者への訴求、本市域内での滞在時間の延伸、市内での宿泊者数の増大に寄与する観光客の需要に対応した取組を市内事業者とともに継続して行うこととしている。
 ○みよしDMOは、公共性の高い事業を担う組織であることから、公的活動を行う限り、財政投下は避けられない。財政的な完全自立はできないが、売上高に対する観光に係る補助金収入の割合について指標を定めるなどを行う必要がある。
 ○最小限の投資で最大限の成果が得られるよう、補助事業に対しては、PDCAマネジメントサイクルを回し続けるよう指導するとともに、事業効果の報告を確実に求める。

めざす姿

魅力的な観光資源の開発等により観光消費額が増加し、観光産業等が活性化している。

施策分野の目標指標	現状値	中間値 (令和10年度)	目標値 (令和15年度)
観光消費額	6,278百万円 (令和4年度)	7,700百万円	10,000百万円
市内総生産(商工業)に対する観光消費額の割合	3.4% (令和4年度)	3.5%以上	5.0%以上

施策 1 質を重視した付加価値の高い観光の実現

主な取組	めざす姿			
<ul style="list-style-type: none"> ●多様な情報発信により入込観光客の増大を図るとともに、リピート観光客の維持と新規観光客の獲得を図る。 ●近隣市町にある地域DMOなどの観光推進組織が連携し、市域を超えた周遊観光や宿泊を伴う観光の促進を図る。 ●滞在時間の延伸や、付加価値の高い地域資源を活用した魅力あふれる体験型観光プロダクトの造成を図る。 	質を重視した観光地の稼ぐ力の創出をめざして、多様な関係者の参画のもと、自然、文化、伝統といった本市の特性や地域のストーリーを活かした付加価値の高い観光が実現している。			
	重要業績評価指標(KPI)	現状値	中間値	目標値
	総観光客数における「入込観光客数」の割合	68.1% (令和4年度)	70%	75%
	宿泊者数(延べ入泊)	15.5万人 (令和4年度)	18万人	20万人
体験型観光プロダクトの造成支援数	0件 (令和4年度)	5件	10件	

施策 2 インバウンド誘客の拡大、受入環境の整備

主な取組	めざす姿			
<ul style="list-style-type: none"> ●対象エリアを明確にした訪日外国人観光客を誘客する取組を強化する。 ●多言語対応スポット整備や、観光スポットへの交通アクセスの改善など、外国人観光客への対応を含めた着地整備による満足度を高める。 	本市の体験型観光等を目的とした訪日外国人旅行者数、宿泊者数が増加している。			
	重要業績評価指標(KPI)	現状値	中間値	目標値
	外国人観光客数	837人 (令和4年度)	30,000人	80,000人
外国人宿泊者数(延べ入泊)	407人 (令和4年度)	5,000人	10,000人	

SDGs																	
	貧困をなくそう	飢餓をゼロに	すべての人に健康と福祉を	質の高い教育をみんなに	ジェンダー平等を実現しよう	安全な水とトイレを世界中に	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	働きがいも経済成長も	産業と技術革新の基盤をつくろう	人や国の不平等をなくそう	住み続けられるまちづくりを	つくる責任 つかう責任	気候変動に具体的な対策を	海の豊かさを守ろう	陸の豊かさを守ろう	平和と公正をすべての人に	パートナーシップで目標を達成しよう